

「国際協力カレッジ」に参加した市民および国際協力団体の声（過去5年間分）

「国際協力カレッジ2013～2017 事業報告書」より

「参加者＝国際協力に関心のある中部地域の市民、中学生・高校生・大学生～社会人、退職者等 412 名分の声、および出展団体＝中部地域の国際協力団体のべ 87 団体分の声」を抜粋しました。（ ）内は開催年。

開催年	参加者数	出展団体
2017 年	80 名	15 団体
2016 年	78 名	18 団体
2015 年	68 名	17 団体
2014 年	98 名	17 団体
2013 年	88 名	20 団体
延べ数	412 名	87 団体

●「国際協力カレッジ」に参加者した市民の声（のべ 412 名より抜粋）

- ・ 国際協力を身近に感じることができた。(2015)
- ・ 国内でできるボランティアや国際協力を知れたのが新鮮だった。(2016)
- ・ 実際に色々な団体の方々から話を聞くことができ、国際協力の見方が変わった。(2016)
- ・ 国際協力に対するさまざまなアプローチの仕方があることに気づき大変参考になりました。(2014)
- ・ 国際協力を考えたとき、これまで漠然としていたが、様々な団体の携わり方を知り、自分がどう携わっていけるかを具体的にしていきたいと思った。(2017)
- ・ 国際協力に関わる人と交流できるきっかけが分かったのでよかった。(2013)
- ・ 紙面・ネットだけでは分からない団体の具体的な活動を知れてよかった。(2013)
- ・ ボランティアに関してのみならず、現代の私たちに求められている重要な事をも知ることができた。(2017)
- ・ 各団体がボランティアなどを募集していることを知れてよかった。(2017)
- ・ ”国際協力”というハードルが高い気がしていたけど、自分にも出来ることがあると感じた。(2016)
- ・ NGOのインターンについて知ることができて良かった。(2016)
- ・ 学生としてボランティアに参加する重要性を学べた。(2016)
- ・ 様々な種類のボランティア団体を知るいい機会になった。(2015)
- ・ 具体的な話を聞くことで、よりリアルにイメージすることができた。国際協力を身近に感じた。(2014)
- ・ 直接団体の方からお話を聞くことで、インターネットで調べるだけでは分からないことも知れた。(2014)
- ・ ボランティアのやりがいを感じた。生活が充実していると感じた。(2013)
- ・ 貧困をなくすための JICA の取り組みが学べてよかった。他にも、教育や子どもたちのためのプログラムが作られており素敵だなと



思った。(2017)

- ・ インターンをしたいと思えるようになった。(2016)
- ・ 本当に楽しかったし、来てよかった！と思います。ありがとうございます。色々な団体が来てくれるのがいいと思いました。(2014)

●国際協力カレッジに出展した中部地域の国際協力団体の声（のべ 87 団体より抜粋）

- ・ 思った以上に、ボランティア&インターンに興味がある方が多くて処理し切れなかった。でも新しいボランティア&インターンが見つかりそうでよかった。(2014)
- ・ 初めて参加しましたが、約100名の参加者に驚いたのと、こんなに多くの若者（高校生もいて）の参加があることにも驚いた。(2014)
- ・ ボランティアをやりたい人がこんなにいるイベントは少ないので、とても貴重な機会になった。(2016)
- ・ 年々、国際協力に関心のある方が減っているように思っていたが、（このイベントには）学生中心に多く来場があり、このつながりが長く続いていけば良いなと思った。(2016)
- ・ 様々な団体の方と話す機会になり、刺激にもなった。自分たちの活動を見直す機会になった。(2016)
- ・ このようなイベントを続けて欲しい。（多数あり）(2016)
- ・ 高校生から退職された方まで非常に幅広い年齢層の方が参加されていてすごいと思った。
- ・ たくさんのボランティアを獲得することができ良かった。(2106)
- ・ 年一回だけでなく、3~4回機会があればボランティアが身近になると思います。(2015)
- ・ 前年の参加者が今年のインターンとなり次のインターンを呼びかけるという仕組みはとてもよいと思いました。(2015)
- ・ 積極的に聞きに来て頂けて良かったです。ボランティアに行きたいという強い希望を持っていらっしゃる方も多く有意義な時間となりました。(2015)
- ・ 逆にどうしたらこんなに沢山のの方に集まってもらえるのか、お聞きしたいです。(2014)
- ・ 来年もぜひ。(2014)
- ・ 関心を持ってもらえた人達とじっくりと話をする機会が持てたと思う。また自分自身が団体のことをどれだけ理解して伝えることができるのかわかる場でもあった。(2013)
- ・ このイベントから、団体や活動するようになった人の話があるとよいと思う。(2013)



<アンケートより> 今回の「ボランティア・インターンマッチング展」では、実際にボランティアやインターンを希望する人はいましたか?というアンケートの結果(2017・2016)

2017 選択肢	回答数	1.と回答→人数は?
1.実際にボランティア・インターンを希望する人がいた	83%	各団体 1~13名 計 45名(平均 4.5名)
2.話は聞きにきたが、実際にボランティア・インターンをするかどうかわからない	17%	
3.話を聞きにくる人もいなかった	0	

2016 選択肢	回答数	1.と回答→人数は?
1.実際にボランティア・インターンを希望する人がいた	75%	各団体 1-10名 計 56名(平均 4.7名)
2.話は聞きにきたが、実際にボランティア・インターンをするかどうかわからない	25%	
3.話を聞きにくる人もいなかった	0	

<報告書より抜粋>

●中学生や高校生等、参加者層が幅広く、新たな「無関心層」からのニーズも。(2017)

- ・ 本事業の認知度は年々高まりを見せ、年代も中学生の親子連れ、高校生のグループ参加等が目立つようになり、一方、社会人や退職者など老若男女問わず、幅広い参加者層になっている。
- ・ 必ずしも、国際協力に深い関心を持って参加する人たちばかりではなく、「将来的にかかわりたいので参考のために」「詳しくないけど、勇気を出して参加してみた」という入門よりさらに「超入門者」「無関心層」と呼べる人たちの層が増えたともいえる。よって、本事業の認知度向上と共に、無関心層を後押しできるほどに、広く一般に対し、敷居が下がっていることが考えられる。
- ・ 参加者にとっても、また出展団体にとっても効果があり、出展団体からは、「ぜひ継続して欲しい」、参加者からは、「一年に2、3回開催して欲しい」という意見が多数見られたため、今後も本事業が、中部地域における国際協力の裾野を広げる JICA 中部の恒例事業となることが、中部地域の市民より望まれている。(報告書より引用)(2016)

●「国際協力カレッジ」直後に届いた「即効性」を証明する声(2014)

今回は、なんと国際協力カレッジ翌日より、ボランティアをスタートしたという声を団体から頂いているぐらい1カ月間で複数の出展団体よりお礼の声を頂いている。翌日から、実際に1ヶ月もたたないうちに行動をしている参加者がいることが複数の団体より寄せられた。

- ・ホープ・インターナショナル開発機構→インターン希望の方が翌週に来訪
- ・AHI→カレッジの翌日のイベントに参加者がボランティアをした
- ・幼い難民を考える会→インターン希望の方が早速面接に来た

・名古屋 NGO センター→参加者が発送ボランティアの参加など

また数年前に国際協力カレッジをきっかけに出展団体のボランティアになり、その後協力隊を経験し、現在出展団体の有給職員になったという声も聞いている。さらに昨年度の国際協力カレッジにて出展団体にてインターンを行った参加者が、さらに別の出展団体の職員になっており、感謝の声が届いている。

この地域の国際協力の人材の発掘に、十分に貢献できているイベントであるといえ、一過性の単なるイベントではなく、この地域の重要なリソースの一つになっているといえよう。

